

野球部 懺悔・謝罪・そして感謝

暮林 邦和 (44回)

今回の寄稿には、少なくとも当時の私を知る方々のお許しが必要だと思っています。と申しますのは、その頃の私はツッパリにあこがれていて、高校球児にふさわしくない生活態度で、野球部関係各位、特に同級生には迷惑をかけてしまったからです。行為を具体化するのには、若気の至りということでご容赦願いますが、改めて懺悔しお詫びいたします。

こんな私ですが、私なりの当時の思い出をいくつか挙げてさせていただきます。まず、いの一番に思い出されるのが、サッカー部の試合があるとマウンドを削って平らにし、終わるとまたマウンド作りをしたこと。当時のサッカー部は全国の頂点に立つほどの力があって、招待試合か何かのとき、「マウンド作業」を何度かやった覚えがあります。何でも不満を抱きながらも、部同士の力関係で納得せざるを得ませんでした。

ボールを部員一人一人、いくつか家に持って帰り、ボールを赤い糸糸で縫い直し、ボール全体を締めたこと。今のように父母会があるわけではなく、学校からの援助も少なかったからだと思いますが、物を大事にする精神は勉強させてもらいました。

練習試合では道具を分担して試合会場まで自分たちで運んだこと。これも多分に経済的な理由からだと思えます。私は鳥田からの自動車通学者でしたので、同級生が負担を利かしてくれ比較的軽いヘルメットの担当でした。緑の細ロープをヘルメット頭部の空気穴に通し、それを十数個つなげたものを運びました。重ねるとかさむし、結構重労働でした。焼津中央高校へ同級生が自

転車で行くのを横目に見ながら、枝高から走って運びました。もちろん往復を。こういう純真さもありました。「あぶないでえす！」が下級生の役目であったこと。当時はサッカー部とグラウンドを共有しており、外野の部分にも、先述した力関係があり、さも当然のようにサッカー部員がいばって入っていました。フリーバッティングのときは私達下級生が外野を守り、ボールが飛んでくるとサッカー部員に向けて「あぶないでえす！」と大声で危険を知らせました。当たりそうなどきは声と共に身を挺して捕球します。時々、ゴロがサッカー部の上級生に当たることがあり、険しい顔で怒られました。跳ね返りほどの力があって、招待試合か何かのとき、「マウンド作業」を何度かやった覚えがあります。何でも不満を抱きながらも、部同士の力関係で納得せざるを得ませんでした。

思い出はまだまだ尽きません。その後私は中学校の教員となり、野球部監督がライフワークとなりました。高校時代一応ながら野球部員であったことがきっかけでした。その流れは私の三人の息子が高校野球までやったことにつながりました。枝高野球部に何も貢献できなかつた私ですが、感謝を十二分にしています。

私ははじめて三年目に県大会初優勝。おかげさまで全国大会出場。十年目で全国中学校サッカー大会優勝。その後、全日本サッカー選手権優勝。それが私のサッカー指導人生のスタートでした。藤枝東出身とはいえないだろう。



東海大学第一中学校の四月三日の職員会議。藤枝東出身で大のサッカー好き。おまえはサッカー指導ができるなら。」それが私のサッカー指導人生のスタートでした。藤枝東出身とはいえないだろう。

私のサッカー人生

元東海大翔洋中高監督 櫻井 和好 (42回)



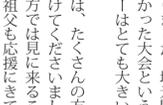
九州の真ん中にある熊本は、藤枝から見るとはるか南の遠隔地であり、私にとっても地縁も血縁もなない土地でありました。人生の偶然と柔道部員、専門的知識は何もありませんでした。しかし、やるからには半端な指導はしたくない。そこで、県のサッカー協会が募集していた「リタイアスクール」に応募し、毎週講義一時間と実技、時間半の講習を取り組みました。県内トップ指導者たちの理論を学び、人間関係が広がったことは大きな財産でした。実技は即座に上達するわけではありませんでしたが、実際のプレーを通じて、教える際のポイントが大変よくわかりました。私にとって藤枝東出身だったことはあるベテラン指導者たちが惜しげもなく胸を開いてくれたので、熊本忠広氏もその一人で、校内で講演をしてくれたり、アドバイスをくれたり・・・。独特の話しぶりが魅力でした。

おかげさまで三年目に県大会初優勝。おかげさまで全国大会出場。十年目で全国中学校サッカー大会優勝。その後、全日本サッカー選手権優勝。それが私のサッカー指導人生のスタートでした。藤枝東出身とはいえないだろう。

私ははじめて三年目に県大会初優勝。おかげさまで全国大会出場。十年目で全国中学校サッカー大会優勝。その後、全日本サッカー選手権優勝。それが私のサッカー指導人生のスタートでした。藤枝東出身とはいえないだろう。

女子相撲 日本一になって

静岡大学1年 松浦 みな美 (82回)



私は師の影響で小学四年生から相撲を始めました。体の小さく私でも大きな相手と戦うことができました。うごに魅力を感じ、本格的に稽古に通うようになり、女子相撲はあまり有名な競技ではありませんが、一年に一回全国大会が開催されます。その全国大会が初めて地方で開催されることになり、その開催地が地元焼津になりました。前回は決勝で敗れ、位に終わったため、今回は優勝を目指して、地元焼津で大会が開催されました。地元開催というベネフィットがあった大会ということで、試合当日は、たくさんの方々が応援に駆けつけてくださいました。足が重く、遠方では見に来ることができなかつた祖父も応援にきてくれました。試合のたびに大きな声援をいただき、とても心強かったです。そして、決勝は前回と同じ選手と戦うことになりました。一年間の舞台に立ち勝つことを目標に稽古をして

きたため、うれしさとともに不安も感じました。しかし、試合中は、自分を信じて戦うしかありません。今大会は、女子の方々にサポートをお願いし、感謝の気持ちで戦いました。試合中は、大勝したいという気持ちで無我夢中でした。たくさんの方々の声援が聞こえ、その後押しのおかげで勝つことができました。地元開催というプレッシャーを感じていましたが、声援は大きな力となりました。また、この勝利は、これから自信につながる大きな一勝となりました。この優勝を経験することで私は少し成長したように思います。私を支えてくれた方々に感謝します。私を支えてくれた方々に感謝します。私を支えてくれた方々に感謝します。私を支えてくれた方々に感謝します。



第13回全日本女子相撲選手権軽量級で優勝。

火の国 熊本から報告

熊本市現代美術館館長 桜井 武 (35回)



九州の真ん中にある熊本は、藤枝から見るとはるか南の遠隔地であり、私にとっても地縁も血縁もなない土地でありました。人生の偶然と柔道部員、専門的知識は何もありませんでした。しかし、やるからには半端な指導はしたくない。そこで、県のサッカー協会が募集していた「リタイアスクール」に応募し、毎週講義一時間と実技、時間半の講習を取り組みました。県内トップ指導者たちの理論を学び、人間関係が広がったことは大きな財産でした。実技は即座に上達するわけではありませんでしたが、実際のプレーを通じて、教える際のポイントが大変よくわかりました。私にとって藤枝東出身だったことはあるベテラン指導者たちが惜しげもなく胸を開いてくれたので、熊本忠広氏もその一人で、校内で講演をしてくれたり、アドバイスをくれたり・・・。独特の話しぶりが魅力でした。

おかげさまで三年目に県大会初優勝。おかげさまで全国大会出場。十年目で全国中学校サッカー大会優勝。その後、全日本サッカー選手権優勝。それが私のサッカー指導人生のスタートでした。藤枝東出身とはいえないだろう。

私ははじめて三年目に県大会初優勝。おかげさまで全国大会出場。十年目で全国中学校サッカー大会優勝。その後、全日本サッカー選手権優勝。それが私のサッカー指導人生のスタートでした。藤枝東出身とはいえないだろう。

「伴走」のススメ

北京パラリンピック フラインドマラソン 伴走者 二見 隆亮 (74回)



私は大学を卒業する頃、知のつなから視覚障がい者のマラソン(以下フラインドマラソン)の伴走活動に携わることになりました。視覚に障がいのあるランナー(以下、フラインドランナー)が走るためには、伴走者という横で情報を伝えながら一緒に走る存在が必要で、フラインドマラソンは二人で作るスポーツであり、人間関係を作りながらのランニングになります。私は高校

時代から現在まで個人競技としての長距離走に取り組んできましたが、ロープを握って人と一緒に走るといった経験は初めてでした。活動を始めた頃、相手にどんな情報をどんなタイミングで伝えなければいいのかわからず、緊張しすぎて非力な走りになってしまったことをよく覚えています。私が伴走を始めた時期は大学院進学と重なっていました。スポーツに含まれる教育的要素、教育学的要素を明らかにしていきたいと思い、進学と同時に専攻を人間科学(スポーツ科学)から教育科学(生涯教育学)へと移行することにしました。



北京パラリンピック 日本選手団 結団式にて

随想

熊本市現代美術館館長 桜井 武 (35回)

メキシコと藤枝東

愛知県立大学特任教授 新大陸考古学 杉山 三郎 (44回)



五月連休を利用してアメリカで考古学総会に参加。その後メキシコで調査をしている。ちやど豚インフルエンザ騒動が発生し、影響を受けながらもメキシコシティで近郊のテオティワカン遺跡で発掘中である。昨年十一月から始めた「太陽のピラミッド」調査の開始の時、思えばメキシコ考古学を志して日本を去ったのは三十年以上前。その後全く別人の人生をメキシコ、アメリカで過ごしてきた。大学教員として二十五年ぶりに帰国し、31HRの旧友と月の同級生で再会。別世界から戻った浦島太郎の気分だった。そんな放浪人生で一体、藤枝東は何だったのか。私は藤枝東のトップを目指す学風と仲間意識が好きだった。しかし

し進学校の卒業生としては落第生だ。確か五枚ほど受験し、受かった唯一の経済学部で満足して、下宿に籠って読書に没頭し、転学も失敗して休学を繰り返して、バイトを転々として人生経験を積んだ。挙句にバツバツバツで半年間ヨーロッパ、アジア二カ国を放浪した。何を志したいのか、苦しみ、もがき、そのため大失態もした。藤枝東高の有名大生生活六年間がその後の人生に大きく影響した。中近東、インド放浪での強烈な異文化体験が心の糧となり、その後考古学に触れる機会を得て夢中になった。地元に戻り、藤枝瀬戸新屋付近の現場で古代人に、モノを通して触れた。さらに新大陸考古学に関心を抱いたが当時日本の大学で講座がなく、一九七八年にメキシコで渡った。まもなくスペイン語とラテン文化に悪戦苦闘、がむしゃらにテオティワカンやマヤ遺跡などの発掘調査に参加し、運よくメキシコ政府国立研究所に入った。メキシコ



NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」収録後、司会の茂木健一郎氏と

部活動小史

新生演劇部 初代顧問 田島光平先生へ

外山 泰三 (54回)

先生、天国でどうなさっていますか。僕は今年で47才。各々の道を歩んでいます。僕らが高1の夏頃、先生を訪ね演劇同好会の顧問にとお願いに行く前、こんな事がありました。

ある日僕は旧体育館の舞台袖の片隅に演劇部の名残を見つけました。それは埃にまみれた数十冊の演劇誌アトロ・・・「昔、東高にも演劇部があったのか・・・」その頃の僕は目標が定まらず、心はプラプラ状態「何か・・・ないかなあ」そんな思いで居ました。埃まみれのテアトロは、かつてこの舞台上で稽古していた人々を想像させ、僕に「何か・・・やってみないか」と誘っている様でした。「演劇部を作ろう!!」



新生演劇部 予備会公演上演台本(当時使用のもの)

先生と案いた新生演劇部は今も継続され、元気に活動しています。先生、これからも天国から演劇部への応援をお願いします。本当にありがとうございました。

うごに魅力を感じ、本格的に稽古に通うようになり、女子相撲はあまり有名な競技ではありませんが、一年に一回全国大会が開催されます。その全国大会が初めて地方で開催されることになり、その開催地が地元焼津になりました。前回は決勝で敗れ、位に終わったため、今回は優勝を目指して、地元焼津で大会が開催されました。地元開催というベネフィットがあった大会ということで、試合当日は、たくさんの方々が応援に駆けつけてくださいました。足が重く、遠方では見に来ることができなかつた祖父も応援にきてくれました。試合のたびに大きな声援をいただき、とても心強かったです。そして、決勝は前回と同じ選手と戦うことになりました。一年間の舞台に立ち勝つことを目標に稽古をして

きたため、うれしさとともに不安も感じました。しかし、試合中は、自分を信じて戦うしかありません。今大会は、女子の方々にサポートをお願いし、感謝の気持ちで戦いました。試合中は、大勝したいという気持ちで無我夢中でした。たくさんの方々の声援が聞こえ、その後押しのおかげで勝つことができました。地元開催というプレッシャーを感じていましたが、声援は大きな力となりました。また、この勝利は、これから自信につながる大きな一勝となりました。この優勝を経験することで私は少し成長したように思います。私を支えてくれた方々に感謝します。私を支えてくれた方々に感謝します。私を支えてくれた方々に感謝します。私を支えてくれた方々に感謝します。



第13回全日本女子相撲選手権軽量級で優勝。

し進学校の卒業生としては落第生だ。確か五枚ほど受験し、受かった唯一の経済学部で満足して、下宿に籠って読書に没頭し、転学も失敗して休学を繰り返して、バイトを転々として人生経験を積んだ。挙句にバツバツバツで半年間ヨーロッパ、アジア二カ国を放浪した。何を志したいのか、苦しみ、もがき、そのため大失態もした。藤枝東高の有名大生生活六年間がその後の人生に大きく影響した。中近東、インド放浪での強烈な異文化体験が心の糧となり、その後考古学に触れる機会を得て夢中になった。地元に戻り、藤枝瀬戸新屋付近の現場で古代人に、モノを通して触れた。さらに新大陸考古学に関心を抱いたが当時日本の大学で講座がなく、一九七八年にメキシコで渡った。まもなくスペイン語とラテン文化に悪戦苦闘、がむしゃらにテオティワカンやマヤ遺跡などの発掘調査に参加し、運よくメキシコ政府国立研究所に入った。メキシコ

し進学校の卒業生としては落第生だ。確か五枚ほど受験し、受かった唯一の経済学部で満足して、下宿に籠って読書に没頭し、転学も失敗して休学を繰り返して、バイトを転々として人生経験を積んだ。挙句にバツバツバツで半年間ヨーロッパ、アジア二カ国を放浪した。何を志したいのか、苦しみ、もがき、そのため大失態もした。藤枝東高の有名大生生活六年間がその後の人生に大きく影響した。中近東、インド放浪での強烈な異文化体験が心の糧となり、その後考古学に触れる機会を得て夢中になった。地元に戻り、藤枝瀬戸新屋付近の現場で古代人に、モノを通して触れた。さらに新大陸考古学に関心を抱いたが当時日本の大学で講座がなく、一九七八年にメキシコで渡った。まもなくスペイン語とラテン文化に悪戦苦闘、がむしゃらにテオティワカンやマヤ遺跡などの発掘調査に参加し、運よくメキシコ政府国立研究所に入った。メキシコ



NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」収録後、司会の茂木健一郎氏と